

協会設立30周年記念事業 730万人の 始動!

国際理解プロジェクト

2017年、埼玉県国際交流協会は設立30周年を迎えました。これを記念し、「730万人の国際理解プロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトでは、外国人講師を地域の公民館やボランティア団体等に派遣し、外国や外国人のことをもっと身近に感じ、興味を持ち、知ってもらうことを目的としています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催などをひかえ、インバウンドの増加、外国人観光客の一層の増加が見込まれています。外国人と接する機会を是非一人でも多くの県民の皆さんに持っていただけたらと思います!!

30 市町村国際交流協会や市民大学等が行う国際理解講座への講師派遣

市町村及びボランティア団体等の依頼に基づき、外国人講師等を派遣します。費用は無料で、派遣する講師の数は、日本人アドバイザーは1名とし、外国人講師は事業内容により必要人数を派遣します。ただし、先着70件までとし、同団体による申請は1回までとします。

30 「730万人の国際理解プロジェクト」賛同事業の募集・認定

プロジェクトに賛同して開催する県内の事業を「730万人の国際理解プロジェクト」賛同事業として認定し、その広報等に協力します。認定された事業については、その事業に係る広報媒体等に30周年記念ロゴマークの掲載をお願いします。

▶ プロジェクトの内容を紹介します!

<30周年記念ロゴマーク>

30 国際理解講演会

『WHY JAPANESE PEOPLE! なんでやりたいことをやらないの? ~掘り取るためには~ (48のWHYに基づいて)』



講師：厚切りジェイソン氏

- 講師 厚切りジェイソン氏 (IT企業役員・お笑い芸人)
- 日時 平成29年9月17日(日) 13:30~15:30
- 場所 大宮ソニックシティ 小ホール
- 参加費 無料
- 募集人数 450人(事前申込要。先着順。ただし、定員に余裕がある場合には、当日入場可。)
- 申込方法 8月31日(木)までに、当協会ホームページ (<http://sia1.jp/topics/30thanniversary>) よりお申し込み下さい。当協会よりの返信をもって、申込完了となります。

このプロジェクトに関するお問い合わせは、(石戸・難波)まで
TEL: 048-833-2995 FAX: 048-822-3808 E-mail: anniversary30th@sia1.jp



第6回 エジプト共和国編



友人たちと(写真左がイサムさん)



エジプトのごはん「コシャリ」

埼玉県にゆかりがあり、現在海外で活躍している方にその国の紹介をさせていただくシリーズ「世界の国からこんにちは!」。今回は長年、埼玉に在住しアラビア語の語学講師をされているイサム・サアドさんの母国「エジプト共和国」を紹介させていただきます。

豊富な水と砂漠の国

エジプト共和国は北アフリカの東に位置する国です。首都カイロは950万人の人口を抱える大都市で、アラブ連盟の本部が置かれています。国土の南北にナイル川が流れていますが、ナイル川周辺は古代から多くの文明が栄え、現代でもその豊富な水のおかげで農業が盛んなので美味しい野菜が安く買えます。ちなみに日本でもよく見るモロヘイヤはエジプトが原産なんですよ。他にもエジプトと言えば『コシャリ』が有名で、米、パスタ、豆類を混ぜてそこにトマトソースや揚げた玉ねぎを掛けて食べるソウルフードです。

エジプトは砂漠気候で、夏は40℃を超え、50℃に届く事もあります。しかし、2013年にはカイロ市内で観測史上初の降雪があり、現地のニュースを賑わせました。

美しい街アレクサンドリア

私の住んでいたアレクサンドリアは「地中海の真珠」とも呼ばれる港町で、エジプト屈指の工業都市としても栄えています。

世界最古と言われたアレクサンドリア図書館があった場所に再建された新アレクサンドリア図書館は特に見ごたえのある観光地です。11階建てでとても広大で、考古学博物館やプールもあります。

エジプトと聞くとピラミッド、スフィンクス、そして砂漠のイメージかと思いますが、アレクサンドリアはそんな古代エジプトの雰囲気とヨーロッパの様な街並みが一度に楽しめる街です。港町で魚介類も美味しいので、カイロだけじゃなくてアレクサンドリアにも遊びに来てください。



アレクサンドリアの結婚式



海を臨むアレクサンドリアの街



新アレクサンドリア図書館

ラマダーンとは?

エジプトではほとんどの人がイスラム教を信じており、少数ながらキリスト教徒もいます。

5月下旬からはラマダーンが始まり、イスラム教徒は日の出から日没まで一切の飲食を絶ちます。ラマダーンの意義はクルアーン(コーラン)に書かれていて、断食をすることで貧しい人々の気持ちを理解したり、自分の魂を清らかにする神聖な行事です。

日本の方からラマダーンは辛いのか?と聞かれますが、ラマダーンはとても素晴らしい行いですから辛いと感じたことはちっともありません。

エジプトでは日没になるとモスクからアザーン(礼拝の時刻を知らせる呼び声)が流れ、それを合図に一斉にその日最初の食事(イフタル)を始めます。ラマダーンの夜はモスクもレストランも多くの人で賑わってさながらお祭りの様になります。